

平成 20 年 3 月 31 日版 神門正城

日本物理学会 2008 年春季大会 (近畿大学)

ビーム物理領域インフォーマルミーティング (ビーム物理研究会総会) 議事録

日時 : 2008 年 3 月 24 日 (月) 17 時 30 分 ~ 19 時 30 分

場所 : 近畿大学本部キャンパス (ZL 会場)

出席者 (敬称略) : 田島 (領域代表)、鎌田 (領域副代表)、森 (芳)、小山、柴田 (裕)、大見、西森、坂本、想田、浦川、野田、富澤、岡本、大熊、羽島、井上、柏木、佐藤 (政)、栗木、中村 (剛)、阪井、岩下、坂上、百合、神門、他

司会 : 阪井寛志、書記 : 神門正城、佐藤政則

(内容)

1. 前回議事録確認
2. ビーム物理領域組織関連
3. ビーム物理領域活動関連
4. ビーム物理研究会の組織関連
5. ビーム物理研究会の活動関連
6. その他

1. 前回議事録確認の確認

- ・ 別添に沿って確認が行われた。
- ・ (報告)：野田氏から理事会、代議員会にて「領域の活動はプログラム作成であり、若手奨励賞を選出するのは活動としてはおかしい」というコメントがあったとの報告があった。
それに対しては、本ミーティングで、現実に若手奨励賞は領域毎に選出されているため、そのコメントは的外れであるとの意見が出た。
- ・ (報告)：野田氏から、学術会議にて、世界加速器会議(IPAC)の開催の内定を頂いた旨の報告があった。

2. ビーム物理領域組織関連

a) 代表・副代表

- ・ 2008年10月からのビーム物理領域代表として、現副代表鎌田進氏が、副代表として、熊谷 教孝氏が選出された。

| 期間 | 代表 | 副代表 |
|-------------------|-------|-------|
| 2006年10月--2008年9月 | 田島 俊樹 | 鎌田 進 |
| 2008年10月--2010年9月 | 鎌田 進 | 熊谷 教孝 |

恒例に依れば、ビーム物理研究会会長と副会長がビーム物理領域の代表と副代表を務める。今回、研究会総会における選出を承けて、領域インフォーマルミーティングの場で恒例に依ることを確認した。

b) 次期領域世話人選任 (2008年11月～2009年10月)

2008年11月からの世話人として、光産業創成大学院大学の森芳孝氏が了承された。これにより、今後の領域世話人リストは次のようになる。

| 物理学会領域世話人任期 | 世話人名 |
|---------------------|-----------|
| 2007年5月 - 2008年4月 | 阪井 寛志 (現) |
| 2007年11月 - 2008年10月 | 神門 正城 (現) |
| 2008年5月 - 2009年4月 | 佐藤 政則 |
| 2008年11月 - 2009年10月 | 森 芳孝 |

領域世話人任期についての申し合わせ

- ・ 物理学会領域世話人任期 (1年間) 前後の各半年間、世話人メールリスト (beam-sec@spring8.or.jp) に掲載する。任期前の半年は見習いとして、任期後の半年はアドバイザーとして世話人活動に参加を願う。なお、ビーム物理研究会と物理学会領域の世話人は別扱いである。

c) 若手奨励賞の選考委員について

- ・ 代表（会長）は選考委員に入らないとの申し合わせにより、鎌田氏と入替えて羽島氏の就任が了承された。

新選考委員（敬称略）：熊谷教孝、遠藤一太、野田章、佐藤健次、濱広幸、羽島良一

3. ビーム物理領域活動関連

a) 2008年9月の物理学会秋季大会に向けた方針について

「秋季大会」

山形大学：2008年9月20日（土）～23日（火）[素、核、宇]

岩手大学：2008年9月20日（土）～23日（火）[物性]

この秋季大会にビーム物理領域は参加するべきか？

討議の結果、

- ・ ビーム物理領域として一般講演、主催のシンポジウム等を行わない。
- ・ 共催等の申出が他領域からあった場合は積極的な協力を行う。

ことが決定された。

b) 次期年会での合同セッション、合同シンポジウム、一般講演について

今回の春の学会での他領域との合同セッション、シンポジウムは以下のとおり

・ 合同シンポジウム

- 素粒子実験領域、ビーム物理領域合同シンポジウム： 7講演

「ILC 合同シンポジウム」

- ビーム物理領域、領域1 合同シンポジウム： 6講演

「未来を切り開く光一粒子加速用ハイパワーレーザー・次世代放射光源一」

- ビーム物理領域、物理と社会： 6講演（含取消1，討論1）

「物理と医療産業プロジェクト」

・ 合同セッション

- 実験核物理領域、領域1，ビーム物理領域： 1講演（招待講演）

- ビーム物理領域、素粒子実験： 7講演

- 領域2、ビーム物理領域： 13講演（含取消1）

- 素粒子実験領域、ビーム物理領域合同若手奨励賞 2講演

- ・ ビーム物理の一般講演（招待講演含む） 23講演（含招待講演1）

議論内容

- ・ 合同シンポなどの自己評価をした方がよい。
- ・ 領域1との合同シンポが一般講演と重なっていたのは残念。
⇒他のシンポの日程が決まっていたため、やむを得なかった。
- ・ 一般講演数が少ない。当初は100件/年程度を目標としていた。
- ・ 合同シンポなどのインパクトのある成果も重要。この意義を積極的に発信していくべ

き。

- シンポジウム開催案、企画講演案、招待講演について

議論内容

領域1：ビーム冷却などについて

素粒子実験：KEKB upgrade など

素粒子実験、原子核：J-PARC など

医療関係

ビーム物理研究会会員(beam@spring8.or.jp)メーリングリストへ、テーマ募集の案内を出す。

- その他（募集要項掲載のキーワード）

改定の必要がある場合は領域世話人へ連絡のこと。現行のものはホームページに記載されている。

c) 第64回年次大会以降の開催方針について

- 若手奨励賞の授与式を行う
- 医療関係のシンポジウムを開催：プログラムアドバイザーを選んだ方がよいとの意見があった。東大 上坂氏に相談することになった（了承済）。
- 国際的な合同セッション開催の可能性について議論された。

○ 意見等

- ◇ 原子核などは、アメリカ物理学会と行っている
- ◇ 旅費の捻出が大変。原子核等に加わるのも大変。
- ◇ 9ヶ月前から準備をしないといけない。早くても来年の秋であろう。
- ◇ 近いところ（韓国、中国）からは始めるのが現実的。
- ◇ 秋に行っているビーム物理研究会からはじめてはどうか。その場合、学会に領域としての活動と認めてもらわないといけない。
- ◇ 韓国や中国の物理学会とタイアップしていないのが問題かもしれない（現状では、日本の物理学会への会員登録が必要、【注記】一般講演の場合）

- 上記議論をふまえて、研究会執行部内に「国際交流担当」を新設し、KEK 浦川氏と東大 上坂氏（了承済）をお願いすることが決まった。

4. ビーム物理研究会組織関連

a) 会則見直し作業着手について

○ 会則改定案について

- ◇ 平田氏より、「会則を変える必要なし、運用で対応可能」との報告（メーリングリストにて）。
- ◇ 引き続き検討を行うとの方針が確認された。

○ 拡大世話人会について

◇ 意見等

- 拡大世話人が設立された経緯など説明があった（井上氏、岡本氏）。
- 必要があれば、選挙等で選ぶなどを考えた方がよい。

◇ とりあえず、現状のまま、ということになった。

○ 執行部再確認（「会長、副会長、領域世話人（補佐入れ4名）、

広報、メール名簿管理、研究会担当、国際交流担当」）

上記議論のように、国際交流担当が新設された。現執行部（2008年3月現在）と次期執行部は以下の通り。

| 役職 | 氏名 | 次期予定 |
|-------------------|------------------------------|----------------------------|
| 会長 | 田島 俊樹（原子力機構） | 鎌田 進（KEK） |
| 副会長 | 鎌田 進（KEK） 野田 章（京大） | 熊谷 教孝（理研） 田島 俊樹（原子力機構） |
| 領域世話人 | 阪井 寛志（東大物性研） 神門 正城（原子力機構） | 神門 正城（原子力機構） 佐藤 政則（KEK） |
| 領域世話人 （アドバイザー） | 佐藤 政則（KEK） 柏木茂（阪大産研） | 阪井 寛志（東大物性研） 森 芳孝（光創成大） |
| 広報担当 | 小方 厚（阪大産研） | |
| メール名簿管理 | 中村 剛（JASRI） | |
| 研究会担当 | 富澤 宏光（JASRI） 大熊 春夫（JASRI） | |
| 国際交流 | 浦川 順治(KEK) 上坂 充（東大） | |

5. ビーム物理研究会活動関連

a) 次回のビーム物理研究会について

- 10/30-11/7 の間で、2 日間行うことを決定。日程は大熊氏に一任することになった。
- SP8 の停止期間に合せた。同時期に SP8 シンポが予定されている（1 ヶ月程度で日程が決まる）のでその期間を避ける。また、IPAC の会議が 10/30-31 にあるかもしれない（EPAC にて決定される）。
- 研究会のテーマは皆さんから募集する。【メーリングリストへの案内、鎌田氏から】

b) 平成 20-21 年度科研費補助金の時限付分科細目に「量子ビーム」が設定されたことへの対応。また科研費への対応

- 議論の内容
 - (ア) 基盤 C しか出せないのので使いにくい。
 - (イ) 立上げには努力されているはずなので、出せる人は積極的に応募すること。

- (ウ) ビームというキーワードが点在している。
- (エ) メリットはあるのか？⇒科研費のカテゴリに正式採用される可能性。また、応募数により、カテゴリ内の予算が決まるのでメリットはある。
- c) 次回総会開催について（物理学会年次大会インフォーマルミーティングとビーム物理研究会総会の関係）
 - 決定、確認事項
 - (ア) 次回の年会のインフォーマルミーティングで行う。
 - (イ) 今回に引き続き、一般参加可能とする。
- d) 他学会への対応について（平田氏より提案）
 - 議論の内容
 - (ア) 現状でも個々の会員はそれぞれの学会でも活動されている。
 - (イ) ビーム物理研究会としてはやはり「物理学会」を重視すべき。
 - 結論として、当面現状のまま、個々の活動に期待する。
- e) 大学生へのビーム物理への呼びかけについて（平田氏より提案）
 - 議論の内容
 - (ア) 他の領域では、学部3年生を研究所などに案内し、積極的に勧誘を行っている。
 - (イ) 旅費をどう捻出するかが問題。
 - (ウ) OHO や、レーザー加速の Summer School など一部では行っている。
 - (エ) ビーム関係の学生同士の横のつながりをもちたい。
 - ① 学生が主体となってかつては行っていた。
 - ② 冬の学校なども行ったことがあるが、やはり旅費が問題。

6. その他

- a) ICFA Panel on Advanced and Novel Accelerators の活動について

上坂氏（代理、野田氏）から別添資料(PPT)を用いて報告があった。

 - 新たにメンバーを追加。
 - 数ヶ月に1度の頻度で Newsletter を発刊したい。その際、執筆依頼がいくかもしれないので協力をお願いする。（将来的には教科書にしたい）
- b) 野田氏より、IUPAP に加速器、ビームで新たな commission を立上げてはどうかとの議論が PAC であったとの報告があった。
 - 現状は世界加速器会議等のビーム物理のアクティビティーは、commission C-11(素粒子)、C-12（原子核）にサポートを御願している。
 - 各 Commission 毎に、1年にサポートされる会議の数に制限があるので、C11では独立して欲しいとの意見を持つ人もいる。問題は、世界の加速器施設の所長クラスが委員となっている ICFA が C11 に属しており、これとの関係をうまく考えることが

必要と思われる。性急に事を進めるのではなく、各方面でじっくりと議論いただく姿勢で進めるべきと言うのが提案者の黒川氏の意向である。